

ITを活用した遠隔地との交流により、感動を共有する社会科授業

茨城県石岡市立府中小学校

うだがわまさみ
宇田川正美

【実践の内容】

ITの活用により実現が困難な遠隔地との交流を可能にし、学びのネットワークの拡大と、感動の共有をめざして実践をすすめた。

第6学年社会科「戦争を体験した人々とくらし」の単元でコース選択の授業を導入した。テレビ会議システムを活用した被爆体験を伝える遠隔授業、テレビカメラ機能つき携帯電話を活用した長崎市立城山小学校によるピースナビゲーター活動のバーチャル体験授業である。有効な学習素材を持つ遠隔地とITを活用することで交流し、リアルタイムに情報を獲得し、感動を共有することを目指して実践を進めた。

【論文内容の紹介】

1 テレビ会議システムの活用

「ヒロシマの心を伝える会」の協力のもとに、テレビ会議システムを利用し、話し手と本校を結び、被爆した方に体験を語っていた。ITの活用により、話し手の身振りや手振り、表情などをリアルタイムに本校児童に伝えることができた。話し手も本校児童の反応を確認しながら話すことができた。

テレビ会議システムを通してリアルタイムに伝えられる被爆体験に、児童は心を打たれた。授業後、意見を述べることが得意でない児童が、戦争に対する自分の思いを語るようになった。それまでは頭の中で知識としてしか戦争を理解していなかった児童が、体験を聞くことで知っていることと本当に理解することの違いに目を向け、体験した感想を語るようになった。いずれも大きな変容であった。

2 テレビカメラ機能つき携帯電話の活用

長崎市立城山小学校との授業では、テレビカメラ機能つき携帯電話（FOMA）を活用した。城山小学校は、長崎原爆の爆心地に近い学校であり、校内に原爆の悲惨さを示す多くの遺構を持つ。そうした遺構を修学旅行生や見学者に紹介するピースナビゲーター活動を、児童が平和活動の一環として行っている。そこでテレビカメラ機能つき携帯電話を活用して、城山小学校の校内にある平和に関する碑や遺構を、紹介してもらう授業を実践した。

城山小の児童に、平和資料館となっている被爆校舎、嘉代子桜やカラスザンショウ、原爆投下当時の写真などを映像とともに紹介してもらった。その後、城山小が大切にしている平和活動である「子らのみ魂よ」の合唱を伝えてもらった。

遠隔地のために見学することが困難であった施設の見学や活動の紹介を、テレビカメラ機能つき携帯電話を活用することで、バーチャルで体験できた。同じ小学生の平和活動を体験し、自分たちとの違いに目を向けた。授業後、「自分たちも何か平和を守るために活動をしなければ」「自分たちにできることは何だろう」と、本校児童も考え始めた。

3 成果と今後の課題

遠隔地との交流が効果的であっても、実際に交流することは困難なことが多い。その困難を乗り越える手段がITの活用であった。感動を伝える手段としてITは十分な効果を果たした。ITの活用により、学びのネットワークを拡大することができ、文章やビデオ映像とは異なりリアルタイムに遠隔地と感動を共有することができた。

テレビ会議システムも、テレビカメラ機能つき携帯電話も、授業の中で活用の幅を広げられる可能性を十分秘めている。今後もさらに授業でのITのより有効な活用方法を考え、学校間及び社会の有効な教育力を生かした学びのネットワークの構築を目指していきたい。